

令和 7 年度自己評価表 （最終）

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標		実績値	目標値	評価 (自己評価の結果)	改善策
						令和 6 年度	令和 7 年度		
確 かな 学 力	他者と協働し、主体的に学び続ける。	学力の向上	○授業の中やすきま時間を使って、習熟のドリル等に取り組ませる。 ○発達段階に応じた説明課題に取り組ませる。 ○選択制家庭学習に取り組ませる。 ○文章を読み取る力を高めるために、読書活動に取り組ませる。 ○「里海」を生かしたカリキュラムの開発をする。	○江田島市学力調査全国平均点との比較 ○学期末テストの平均点 国語 読解力 (思考・判断・表現) 言葉、漢字 (知識・技能) 算数 (思・判・表) 算数 (知・技)		国 99.5 算 103.4 国 (思) 89.0 国 (知) 86.9 算 (思) 81.3 算 (知) 88.9	国 101 算 103 国 (思) 85 国 (知) 85 算 (思) 81 算 (知) 87	国 (思) 87.9 国 (知) 85.5 算 (思) 70.9 算 (知) 80.9	・プリント学習とタブレット学習の両方を、効果的な場面で選択しながら、効率的な反復指導をさせる。 ・問題文から具体的な状況をイメージさせて問題を解かせる練習をさせる。 ・説明課題の場面や、立式をさせる場面では、図や絵を使って状況を思い起こさせたり、具体物を操作させたりする。
		授業力の向上	○自学と協働的な学びを組み合わせた授業づくりに取り組む。 ○児童が見通しをもって学習を進められるように児童自身が学び方や学びの進み具合についての振り返りを 1 時間の授業に位置付ける。 ○教材研究と児童への働きかけについての研修を行う。	① 自律的な学習意欲に関する意識調査（4 年以上）（2 回：4 月と 1 月） ② 学習行動調整力についての意識調査（3 年以上）（2 回：4 月と 1 月） ③ 教員の見取りと働きかけ力のチェックシートによる振り返り		①同一化了的レベル 10.6 ②自律項目 (9) 3.20 協働項目 (3) 3.50 見通し項目 (1) (2) 自己選択 (7) の平均 3.0 ③見取りと働きかけ3.7	維持 上昇 上昇	①同一化了的レベル 11.02 ②自律項目 (9) 3.40 協働項目 (3) 3.30 見通し項目 (1) (2) 自己選択 (7) の平均 3.22 ③見取りと働きかけ4.13	・個人のつまずきに着目した取組は充実できている一方で、個人の学びを集団の学びに転用していく学習に課題がみられる。実際の生活に関する課題を学習の中に取り入れるなど、共に学ぶ意識を高められるよう、アイディアを出し合いながら、答えのない課題に取り組み、「みんなで協力して課題を解決する」経験を積み重ねる。
豊 かな 心	自らを律し、他人を思いやり、夢や目標に挑戦する。	自己有用感・レジリエンスの育成	○道徳教育の充実 ・道徳教育推進リーダーを中心として中学校と連携した道徳の授業を行う。 ・行事前に学校の重点項目「希望と勇気、努力」の教材を行い、行事と関連させて授業を行う。 ○相互の認め合い、評価により自信をもたせる取組の推進 ・児童の実態に応じて、特活と関連させながら、各学年で相互の認め合いができる取組を行う。 ○個の実態に応じた支援、指導を行う。	○児童の肯定的評価の割合（アンケート） ○児童の肯定的評価の割合（アンケート） ○教員アンケートによる達成率（実施回数/クラス数） ○不登校の報告件数	レジリエンス 自己有用感 ○昨年度との比較	89％ 87％ 4 名	90％ 96％ 87％ 0 名	90.6％ 83.5％ 100％ 3 名	・引き続き、道徳科の授業や学校行事だけでなく、普段の何気ない日常にもレジリエンスにつながっているという意識を教師がもって児童と接し、その都度児童に肯定的評価を促す。 ・児童相互の認め合いだけでなく、教師が児童の思いを価値づけることで自己有用感の向上を図る。 ・ソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターなど、人間関係づくりに関するスキルトレーニングができる場を設ける。
		社会性の育成	○生活目標の取組を徹底する。 （あいさつ、返事・時間目までに静かに集合・黙って掃除、言葉遣い） ・特に「あいさつ、返事」は年間重点目標に設定する。 ・月ごとに目標を設定し、毎月児童に自己評価させる。 ・全職員で随時、全児童の評価を行う。 ・月ごとに「あいさつ名人」認定を行う。	○教師と児童の見取りによる達成率	あいさつ、返事 時間までに静かに集合 黙って掃除・きれいに整頓 言葉遣い	94.3％ 89.6％ 93.5％ 93.7％	93％ 92％ 89％ 93％	92.2％ 92.2％ 90.6％ 89％	・2 学期は、生活委員会のあいさつ運動にだれでも参加しても良いという場を設定し、みんなであいさつを盛り上げる取組を行った。3 学期はあいさつ運動やあいさつ名人認定等、あいさつの取り組みを継続させる。 ・あいさつ・返事・黙って掃除は、引き続き教師が手本となり、児童と一緒に取り組む。また、相手を思いやる言葉遣いでは、特別活動等で、振り返りながら考える時間を設け、繰り返し粘り強く取り組む。
		健康で自律した生活習慣の育成	○学活・保健朝会・ミニ保健指導において、メディアコントロールを中心とした保健指導を 5 回以上実施し、メディアコントロールの定着を図る。 ○年 3 回生活リズムチェックを実施し、課題のある児童の個別指導を行う。	○生活リズムチェックにおける「メディアコントロール」項目の各学年【合計達成率】80％以上を目指す。年間 3 回実施し、生活リズムウィークを通して、1 学期 75％、2 学期 77％、3 学期 80％。		なし	1 学期 75％ 2 学期 77％ 3 学期 80％	1 学期 83.4% 2 学期 86.3% 3 学期 83.8%	・ミニ保健指導や保健だよりで、引き続きメディアコントロールの大切さを指導していく。 ・生活リズムチェックの結果をもとに、具体的な自己の姿を振り返らせ、どのような生活の仕方が良いかを考えさせる。今後も、自らの生活習慣を見直しながら、主体的な健康管理能力を育てる。
		体力・運動能力の向上	○体力の向上をめざし、ドリル運動等を組み込んだ授業改善、外遊び及び全学年の体力向上運動の充実を図る。	○反復横跳びにおいて、体力・運動能力調査の全国平均を上回る児童の割合。 ○2 分間走において、各学年で設定した目標値達成の割合		なし 達成できた学年数 3 学年	69％ 達成できた学年数 4 学年	73％ 達成できた学年数 1 学年	・体育の授業の中にラダー運動を積極的に取り入れていった。リズムに乗り、楽しんで足さばきができる児童が増えた。引き続き反復横跳びを学期ごとに計測し、自分の目標を意識させる。 ・二分間走は各学年で決めた目標値にどこまで近づけたか経過を掲示した。最初に掲げた目標よりも記録を縮める学級が増えた。引き続き記録経過を呼びかけ、児童の意欲を高めていく。
地 域 と 共 に あ る 学 校	積極的に情報を発信し、地域・保護者との連携を図る。	地域・保護者との連携の推進	○学校運営協議会を発足させ、課題やビジョンの共有化を図りながら、円滑な運営を行う。 ○これまで支援してくださっていたボランティア活動を整理し、「大柿っ子応援隊」(仮称) の取組を進める。	○学校運営協議会のアンケートにおいて、コミュニティスクールの活動の評価（5 点満点）。		なし	3.0 以上	4.0	・年間を通じての学校行事、地域行事を見通し、児童の参加意欲を高め、様々な場所での個々の居場所を増やす。 ・1 年目の活動をもとに、本校におけるコミュニティスクールの形を模索し、児童の実態に応じた目標を定めるよう熟議する。
		働き方改革の推進	○コミュニティスクールの導入により、児童と向き合う時間が増えるよう、新しい業務の形態を試し、ウェルビーイングな職場環境を実現する。	○コミュニティスクールの導入によって、働き方が向上したと感じる評価（5 点満点）。		なし	3.0 以上	4.1	・学校運営協議会委員の方から、地域の方への働きかけがしやすいように、生活科、総合的な学習の時間の学習において、どのような活動を行っているかを共有する。 ・地域の方から、学校外の子どもの様子が伺えるように連携し、教育活動の成果が表れていることを実感できるよう試みる。